

令和4年度 事業報告 総括

同朋学園

《実践目標及び報告》

1) 地域との共生

※社会貢献

コロナの影響により、地域活動等は縮小されはしたもののできる範囲で実施し、リフレッシュ事業の受け入れもできる限りの実施（延べ件数18件）をしました。また、神戸市の生活困窮者支援事業として昼食提供を1月20日・2月18日の2回実施（合計142食）し、近隣においてもニーズがあることを知り、今後は地域支援という形で社会貢献につなげていきたいと思いをします。

2) 人権の尊重

※子ども支援

ユニット生活により家庭体験も増えてきましたが、寄せ集め感は拭い去れないため、個々に出す愛着表現は様々です。しかし、集団生活という仲間意識は徐々に根付きつつあり、時には喧嘩もしますが、職員等の仲裁で解決していく術も身につけているように思います。

3) 人材育成

※社会的、家庭的養護推進に向けて職員の資質向上を目指す

今年度は第三者評価を受審し、評価内容を全職員で確認する時間を設けていただきました。なかでもナビシステムによる情報共有で子ども支援にあたっていること、地域の関係機関等との密接な交流、ボランティアの積極的な受け入れを評価していただきました。そのうえで中・長期計画における学園全体の課題の分析や評価・改善に向けて立ち上げた委員会活動の積極的な取組が期待されています。委員会活動を通して知識の向上を意識した研修を組み立て、知識の蓄積や知恵を働かせる柔軟な姿勢で資質向上を目指します。

4) サービスの質の向上

※「ようこそ」「さきに」「ありがとう」の実践

どんなことも意味があつてのことと受け止め、出会った事象の先にある喜びを感じたいと思いをします。

令和4年度 目標及び報告

同 朋 学 園

法人の 基本方針	項目	目標 (P)	実践 (D)	気づき・反省・満足度(C)	次への期待 (A)
地域 生との共	社会 貢献	・地域清掃の実践 ・地域活動への参加 ・地域支援	≪地域清掃≫ ・月1回、児童と職員での地域清掃 ・年11回、職員のみでの地域清掃 ・年1回、全教一斉ひのきしん(中止) ・年2回地域自治会による清掃活動への参加(中止)	・今年度はコロナ禍の関係で実施することが出来ないことが多かったが、出来ることを実践していき、地域に根差すことを心がけたい。	・人のお役に立つことの嬉しい人となること。 ・社会の一員であることの意識付け。
人権 の尊重	子ども 支援	・グループホームやユニットでの生活で家庭体験を増やす ・子どもが主体的に運営する行事(運動会など) ・子ども対象の研修会(サイバー講習・性(生)教育) ・学習支援(学習ボランティア、図書コーナーの充実)	・各ホームでの家庭体験は定着しつつある。 ・ほとんどの行事が未実施に終わりがけたが、子どもからの提案により『スポーツの秋だよ 全員集合』(11月6日)実施。	・子ども発信の行事が出来たことについては子どもはもちろんのこと職員も感謝して参加することができた。	今後も子ども達から提案等の上がる関係作りの構築。
人材 育成	職員の 資質向上を 目指す	・子どもの権利擁護チェックリスト(全養協)による自己点検 ・ケースカンファレンス(年11回) ・講習会、研修会の実施(障がい児研修・性(生)教育等) ・調理作業の向上	・子どもの権利擁護チェックリストによる自己点検(7月・2月) ・園内研修(4/26、講師：春海淳子氏)(12/7 講師：米澤好史氏) ・ケースカンファレンス10回(9月はコロナのため中止)	・今年は障がい等の研修を進めたが、今後も継続していきたい。	・子ども理解は大人理解にも通じる。 ・職員の相互理解。
	「ようこそ」「ありがとう」「さきに」の実践	・「ようこそ」→学園に来られた方すべてに“ようこそ”の思いを持って接する ・「さきに」→日常のあいさつは自分から“さきに”行う ・「ありがとう」→どんなことから学びがあることを知り、“ありがとう”の思いを持つ	・受け入れる心の実践。 ・先に挨拶することの実践。 ・物事の見方を変えてみるものの意識付け。 ・小さなことでも感謝の思いを持つことの意識付け。	・自分の価値観で物事を見てしまうこともあり、人の良いところを見つけられる意識を持つことが大切。	・相手とのチャンネル合わせが出来て、認め合える雰囲気づくり。

令和4年度 実践報告

同 朋 学 園

	目標・計画 (P)	実践 (D)	子どもの声	気づき・反省・満足度・次への期待 (C/A)
北町ホーム	・ルールをしっかりと守らせる ・朝起き、食事、その他時間を守らせる ・子どもの状況をよく把握し、理解するよう努める ・コミュニケーションをよくとる	・ルールの変更等がある場合は職員だけで決めるのではなくコーナー会議を設け、子どもの意見を取り入れながらも自由奔放にならないよう、子どもと職員と歩み寄りながらルールを決めた。 ・ともに決めたルールを守るよう声かけをしていき、ルールを守り、子どもたちが守られる環境づくりをしていった。 ・「行くべきところ」へ時間内に行き、「帰ってくるべきところ」に時間内に帰ってくる事が出来る基本的な生活習慣が身につくように努めた。 ・自粛期間中であつたが身体を動かしたいという子どもの要望があり、外遊びを実施できるよう配慮した。	・平日もテレビゲームがしたい。 ・自粛期間だけ外遊びがしたい。(バスケットコート・本体施設屋上・公園など)	・子どもは室内にこもるよりも身体を動かして遊ぶことで発散が出来ると思うのでできる限りかなえてやりたい。 ・ルール決めについては子ども自身が納得できたことであれば、守ることは出来ていたの子どもとの意見交換を大事にする。 ・子どもの課題がより明確になった。特に食事面では偏食と過食、欠食等があり、バランスの良い食事と規則正しい生活ができるようにしていく。
中町ホーム	・個々の状況に合わせ、その都度話し合いの場が持てるよう職員同士連携をとり、児童の様子を共有する ・定期的にホーム会議を実施し、自分たちの意見を共有できる場を提供する	・自分の気持ちを素直に言葉で伝えられるよう職員は対話の中で子どもが理解しやすい言葉での声掛けを心掛け、自己選択を促した。	・話をしっかりと聞いてくれるので決めつけされず自分の問題を解決できた。 ・問題行動がない生活をした。 ・頑張れることを認めてもらって力を伸ばしたい。	・子ども達が出来ることを少しでも増やし、自信に繋げていくよう職員が支援していく。 ・大学生、高校生、中学生、小学生との共同生活なので、これまでの流れを見直し、自立に向けた援助をしていく。
みつばホーム	・朝夕、食事前後の挨拶の実施 ・子どもからの意見は尊重し、きちんと受け止める ・日常の会話を大切に、子どもが職員に相談しやすい雰囲気づくりを心がける	・職員が積極的に挨拶をし、まずは返事ができるように心掛けて出来た時には褒めた。 ・職員と個別に話す機会を作り、自分と向き合いながら課題や将来について話すことができるような環境づくりをした。 ・子どもから意見があつた際は否定せず、子どもと一緒に考えるようにした。	・寝起きや疲れはあつたけど挨拶することができた。 ・職員とひとつ個別に関わる機会が欲しい。 ・ルールを見直したい。	・子どもから関わりを求めてきたときは時間を作って気持ちを受け止めるよう心掛けたため子どもたちも落ち着いてきた。 ・外出時でもしっかりと挨拶を心掛けられるようになった。 ・自立を目前に控えている子に対し、具体的な進路の話をしたり、気持ちの聴き取りを行い、不安を少しでも軽減できるよう親身になって寄り添いたい。 ・子ども達が安心して過ごせて本音を言える良い環境づくりを心がける。
さくらホーム	・職員から積極的に「ありがとう」「ごめんね」の言葉を伝える ・一人ひとりの子どもに寄り添い、話を聞く ・子どもの表情をしっかりと見て職員同士情報共有する	・職員が手本となるよう感謝の気持ちを伝えた。 ・職員と個別に話す機会を設け、普段の出来事や将来の話をし、しんどいことなど話すことができるような環境づくりを行った。 ・少しの出来事でも職員同士で共有し、話し合いをした。	・学園全体の行事がしたい。 ・年下他児の面倒を見てくれた。 ・職員とお出かけしたい。	・幼、小、中、高と幅広い年齢層で生活し、子ども同士で助け合う姿を認めて褒めて継続させる。 ・子どもの話に耳を傾け、気持ちを受け止めるよう意識していたことでリビングに出てきて自分から職員へ相談する子どもが増えたので今後も続けていく。 ・子ども達の良いところをたくさん見つけ褒め、自信に繋がるよう支援していく。

あおばホーム	・一日の流れを紙に書き、全員が見えるように貼り出す ・ひとり一人に寄り添い、気持ちをくみ取り、支援する ・子どもの苦手に一緒に取り組み、持てる力を最大限に伸ばす	・1日の流れではなく、ゲームの終了時間など大事な時間をわかりやすく掲示した。 ・個別に宿直部屋に呼んで話をするなど、子どもが思いを伝える機会を持てるようにした。 ・宿題と一緒に取り組んだり、困っていることについてどのようにすればいいか一緒に考えたりした。	・自分たちの意見をもっと聞いてほしい。 ・遠くへ遊びに行きたい。 ・自分たちのしたいことがしやすくなった。	・一度の声掛けで行動を切り替えられない場面はあるものの、おおむね時間通りに行動できていた。 ・できるだけ個別の時間を設け、大事なことを話す機会を作ったが、コーナーの職員全員が意識して個別の時間を増やしたい。 ・できる限り個別対応をすることで学習時間をより充実させていく。
つくしコーナー	・個々の関わりを丁寧にし、関係づくりをする ・常に笑顔で接し、命令口調でない優しい口調を心がける ・生活リズムを崩さないように心がける	・スキンシップをとり、子ども達が安心してできる環境を作るようにした。 ・日々の日課を定着させ、良い生活習慣が身につくように声掛けした。 ・職員も一緒に楽しみ、遊びを通して友だちの大切さを伝えるようにした。	・甘えてきたり、試し行動など出し方は様々であるが、ストレートに表現してくれることが多くなった。 ・楽しい遊びをもっとしたい。 ・職員と個別に遊ぶ時間が欲しい。 ・年下児童の面倒を見てあげた。	・子どもたちとの時間をたくさんとり、個々の関わりも大切にしていきたい。 ・毎日の挨拶やお礼などが自然に言えるようになったのでその行動を認めて褒め、継続できるようにする。 ・仲良くしようという行動や声掛けが子ども達の中で行われている場面が多かったことを認め、褒める。 ・お手伝いを率先してくれることが増えたことを言葉にして伝えていく。
食堂	・食に興味をもてるよう定期的に調理実習を行う ・自立後の食生活に役立つメニューや調理指導する機会を設ける ・定期的にホームを見回り、情報交換をする	・退所児童が退所後自炊できるように調理実習を行った。 ・夕食時、各ホームを回り、食事風景を見て回った。 ・各ホームを回り、子ども達と一緒にレシピを見る機会を作った。 ・季節ごとに行事食を提供することができた。	・調理実習を行った児童からは、はじめはめんどくさがっていたが他の人が食べて「美味しい」という声を聞くと『自分でもできた』と自信に繋がる声が聞けた。 ・自ら学校でレシピ本を借りてきて、『こんな料理が食べたい』と、食べてみたい料理のリクエストの声があった。	・子ども達が自分でご飯やお菓子を作る機会がまだまだ少ないので増やすように努める。 ・弁当や朝食作りを処遇職員が実施しているため、児童のみでなく、処遇職員とともに調理実習を行っていく。 ・子ども達の食への興味がしっかり伝わった一年であったため、食べ方や食行動など、健康に繋がる食事の正しい知識など深められるように協力していく。
事務所	・ゆとりを持った事務作業 ・役割分担の確認作業 ・整理整頓	・出勤時に明るい挨拶を心がけた。 ・アイリス（ナビシステム）の活用で情報の共有を図った。 ・来られた方への配慮を心掛けた。	・職員の協力体制が重要という声が聞けたのでそれぞれが意識をもってやるべきことを実践していく。	・アイリス（ナビシステム）をしっかりと見ておくことは子どもや職員への対応に役立つので確認してほしい事柄については改めて見てほしいとアナウンスするようにしていく。

令和4年度 事業報告

同 朋 学 園

1、利用児童数

	定員	児童数 (年平均)	充足率	一時保護委託 (件数)	リフレッシュステイ (件数)
令和3年度	44人	39人	92%	19件	23件
令和4年度 中間報告	44人	43人	97%	1件	4件
最終報告	44人	42人	95%	3件	18件

2、特別指導員事業

・空手教室（西口直貴先生）

毎週火曜日・金曜日（19:00～21:00）

男子8名

90回

3、心理療法事業

（春海先生、金沢先生、山本梓先生、山本結先生）

ケースカンファレンス

10回

心理療法プレイセラピー

548回

4、施設機能強化推進事業

（ア）心身機能低下防止事業

入進学お祝い会	中止
本島創立120周年記念祭（5月21日）	児童5名
本島キャンプ	中止
夏の鼓笛合宿	中止
鼓笛前夜祭	中止
夏祭り	中止
韓国大慈園交流会	中止
クリスマス会	中止
同朋学園運動会	中止
門出式（3月3日）	児童1名
お礼団参（3月4日）	児童10名
春の鼓笛合宿（3月31～4月2日）	児童17名

(イ) 処遇困難事例研究事業 (園内研修)

児童養護施設における心理療法について 心理カウンセラー 春海淳子 氏	職員 23 名
公用車運転危機管理研修 同朋福祉会 顧問 一丸武彦 氏	職員 20 名

(ウ) 園児対象学習会

(性) について考える 性教育ファシリテーター 足立泰代 氏	中止
サイバー研修 兵庫県警サイバー対策課 本田英理 氏	中止

5、定期健康診断の実施状況

	実施年月日	記録の作成	実施機関 (嘱託医)
園児	4月12日～5月28日 10月4日～12月26日	有り	川岸医院 (嘱託医)
職員	5月23日～6月6日 11月14日～25日 (宿直者のみ)	有り	兵庫県予防医学協会 川岸医院 (嘱託医)

6、給食関係者の検便実施状況 (6～10月は月2回実施)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	34	35	35 35	35 33	34 34	30 29	35 32	33	33	31	30	25

検便の実施検査機関及び検査項目

実施検査機関名	登録衛生検査所 有研 (有馬研究所)
微生物学検査登録番号	大阪府知事登録 第128号
登録都道府県等	大阪府
検査項目	赤痢、サルモネラ、O-157、O-26、O-111
月当たりの回数	1回 (但し、6～10月は2回)

7、避難訓練等の実施状況

本体施設	4/29、5/25、6/23、7/19、8/15、9/16、10/4、11/25、12/7 1/15、2/21、3/11 不審者 8/15、3/11 地震 1/15 水害 8/26
------	--

北町ホム	4/29、5/25、6/26、7/16、8/10、9/25、10/22、11/26、12/17 1/30、2/10、3/27 不審者 2/23、3/27 地震 5/25、1/21 水害 7/26、8/10
中町ホム	4/13、5/7、6/8、7/18、8/20、9/12、10/15、11/15、12/29 1/14、2/16、3/9 不審者 11/15、3/19 地震 6/8、1/18 水害 8/8

令和4年度 職員研修会等参加状況

同朋学園

期 間	研修会・大会の名称	参加職員
4月26日	園内研修「児童養護施設における心理療法について」	全職員
6月7日	神戸市教育委員会 「不登校の子どもの親としてできること、しなくてよいこと」 教育相談講演会	田代、越村
6月13日	法人内研修「公用車運転危機管理研修」	園長 中務 笹倉 吉田 古宅 森本優 坂上 池上 新見 堤 網谷 西口孝 西口玲 田代 三代 越村 西前 村山 大江 平田
6月28日	兵庫県公安委員会「安全運転管理者等講習」	吉田
7月13日	神戸市児童養護施設連盟 職員部会 「専門職への理解と共働」	池田 西村
7月15日	神戸市社会福祉協議会 「児童福祉施設新任職員研修会」	西村 村山 田原 橋詰 中村 前川
7月22日	神戸市児童養護施設連盟 職員研修 「社会的養育 各施設の理解と施設間連携を考える」	吉田 坂上 中村
8月21日	「島守の塔」鑑賞	泉谷
9月27日	神戸市児童養護施設連盟 職員部会 「職員部会新任職員研修会」	西村 村山 田原 橋詰 中村 前川
9月27～29日	天理教社会福祉施設連盟 「第53回天理教社会福祉施設連盟全国研修青森大会」	園長 新見 石崎
10月5日	兵庫県社会福祉協議会 「令和4年度アンガーマネジメント研修」	松田
10月7日	兵庫県社会福祉法人経営者協議会 青年協議会 「次世代の社会福祉法人を支える職員のために何が必要か」	中務 石崎 吉田
10月12日	神戸市発達障害者支援センター 「思春期のこどものこころとからだ」発達障がいのある子が悩むこと	田代 越村 池田 小川 橋詰
11月5日	神戸市 第2回児童福祉法改正についての勉強会 「これからの社会的養育を考える」 「神戸市の社会的養育にかかる取り組み」	園長 吉田

期 間	研修会・大会の名称	参加職員
12月7日	「愛着障害の理解と支援の基本」米澤好史 氏	島袋 三代 橋詰 森本み
12月17日	兵庫教育文化研究所 「施設で生活するこどもたち支援実践交流会」	中務 池田
1月25日	天理教社会福祉施設連盟 「令和5年度 天理教社会福祉施設連盟 施設長研修会」	園長
2月2日	神戸市立中学校教育実践研修特別支援教育グループ 「進路研修会」	中村
2月24日	近畿児童養護施設協議会 「児童福祉施設職員研修」小規模ユニットリーダー対象	田代 笹倉 石崎 島袋
9月22日 ～ 2月24日	兵庫県社会福祉法人経営者協議会 青年協議会 「社会福祉法人経営計画策定リーダー養成ゼミナール」	吉田
3月10日	神戸市 兵庫労働局 「障がい者雇用支援セミナー」	西口孝
3月9日	兵庫県社会福祉協議会 「福祉従事者中堅職員研修 職業倫理と権利擁護」	田代 吉田
3月11日	神戸市児童養護施設連盟 「児童養護施設のこどもたちの就労支援を考える」	中務 池田